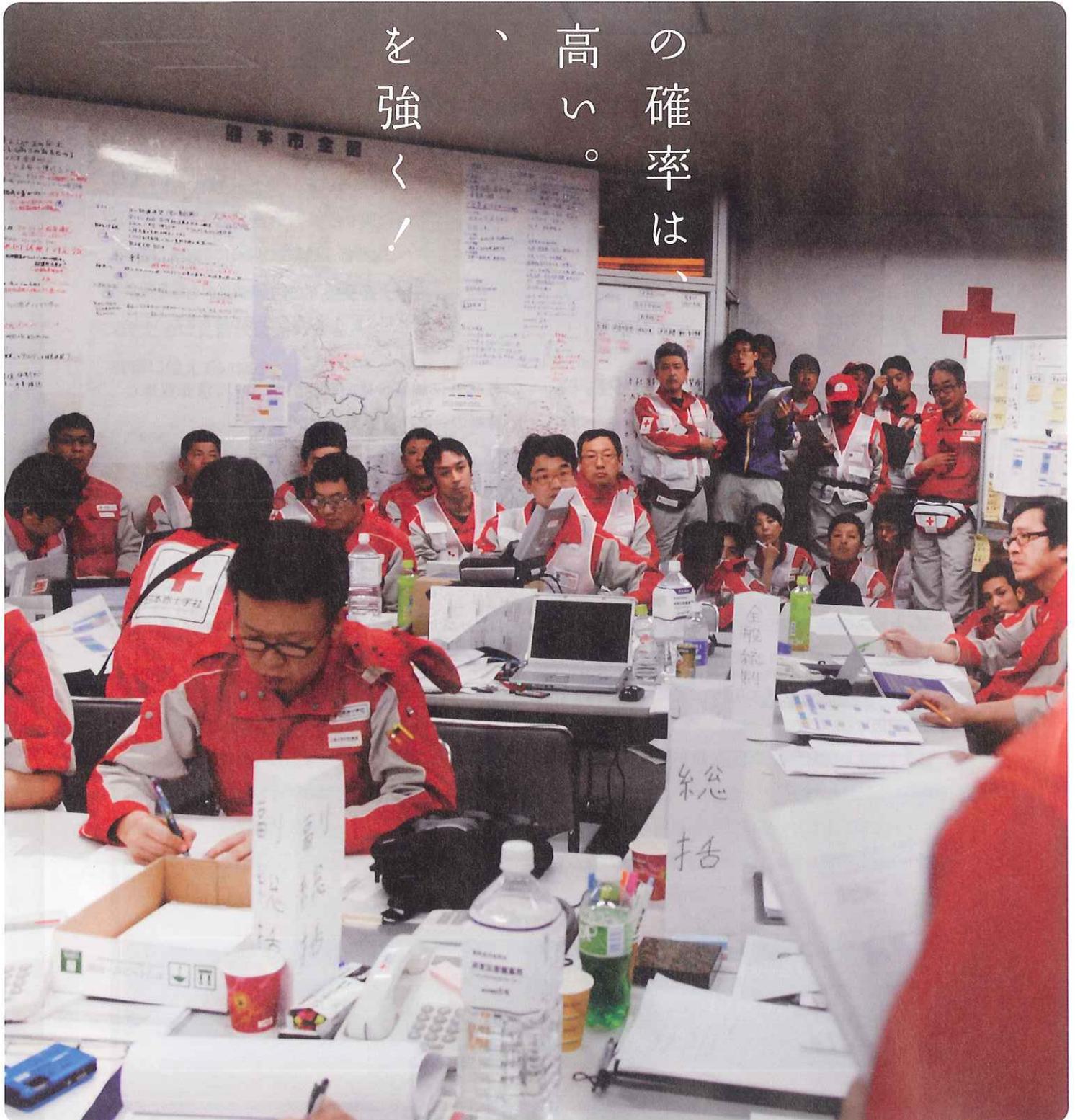


万が一の確率は、
意外と高い。
だから、
守る力を強く！



熊本地震の被災地から学ぶ

平成28年4月14日21時26分に熊本地震が発生。

5日後の19日から23日まで、日本赤十字社静岡県支部からの要請を受け、

浜松赤十字病院より7人(医師1人、看護師2人、助産師1人、

薬剤師1人、事務職員2人)が日赤救護班として現地で救護活動を実施。

鈴木知直先生(浜松赤十字病院副院長・脳神経外科)による、

医療を中心とした現地の活動をレポートします。



01 避難所で増えるエコノミークラス症候群、 市内で増える救急外来

出発したのは19日で、陸路を約1,000km、15時間かけて日赤熊本県支部に入りました。仮眠をとって20日朝8時から始動。日赤熊本県支部で打ち合わせをし、被害が大きかった益城町の総合体育館へ。現地で、37名の方を診察しましたが、ほとんどが外傷、不眠、慢性疾患の方でした。

気になったのが、車中泊によるエコノミークラス症候群の人たち。その予防をみんなしていません。注意勧告をするのですが、車中泊をする人たちの多くは片づけや仕事に

行ってしまうので、昼間はない。そこが、課題です。

夜に熊本市内に戻るとすぐに、熊本赤十字病院で救急外来診察へ。救急外来診察数は1日に350人、夜中でもひっきりなしに患者さんが来ます。ようやく腰を落ち着けることができたときは、21日の午前5時をまわっていました。

救急外来診療後は、待機指示となり、情報収集と災害時の対策検討協議をしました。

02 現場で見える問題点、顔の見える情報を

22日は、南阿蘇中学校へ診療の支援に向かいました。現場では下痢・嘔吐患者が発生していて、しかも一部の医師、看護師にも同じ症状が出はじめていました。ノロウィルスの蔓延初期段階にあるものの、隔離部屋が確保できない、トイレの水が使えない、土足厳禁が守れないなどが原因でした。

これは、難しい問題です。感染症対策を考えれば、もちろん避難所は土足禁止です。しかし、命からがら避難所にたどり着いて靴を脱いでなどいられません。感染を防ぐために仮設トイレも設置しましたが、距離があり面倒になって使ってもらえない。

このように、現場でわかることが多くありました。最も実感したのは、数字ではなく「顔が見える情報」の共有、申し送りが大切ということ。県や市町、警察からの情報は、どうしても数字になってしまう。例えば、被災者が600人いるとして、統制されて設備も充実した600人と、大混乱している600人では当然違います。実際に行った人から伝わる情報を大切にすべきです。しかも、その情報が日赤やDMAT(※)の隊員など訓練されている人からの情報なら、差が出ることはありません。必要なのは、リアルな情報です。

浜松赤十字病院では、浜松市の北部地区で災害医療連絡会を立ち上げています。

浜松市と浜北区、医師会、警察、消防、連合自治会が一体になって、その時に少しでも被害を減らせるよう、

「顔が見える減災」に地域ぐるみで取り組んでいます。

※DMAT…災害急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム

防災教育

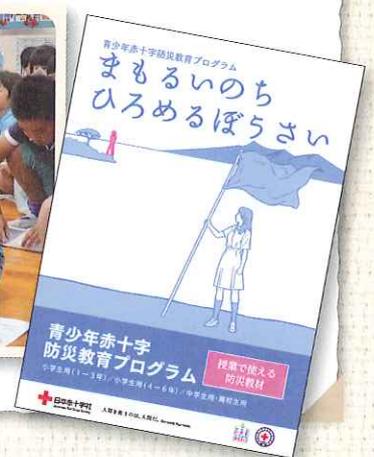
みなさまからの協力を「いのちの学び」につなげる！

子どもたちがそのとき、
「気づき」「考え」「実行」できるように。

赤十字静岡では、未来を担う子どもたちが、将来起こりうる自然災害に対して正しい知識を持ち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動がとれるための防災教育を支援しています。

静岡県ではじまっている「いのちの授業」

授業ですぐに使える防災教材を気象庁等の監修のもと作製しました。防災の授業では、未来を担う子どもたちに、自然災害の正しい知識を身につけさせ、自分の命を守る力をつけるようにしています。



講習

みなさまからの協力を「安心」につなげる！

日常的な病気やけがに備え、
さらに万一の災害時に対処するように。

赤十字静岡では、日常生活で想定される病気やけがに加え、万一の災害時の人命救助にも役立つ救急法等が学べる講習事業を展開しています。

「自分も誰かのいのちを救える」を学ぶ

救急法

心肺蘇生やAEDの使い方、けがの手当のほか、災害時の心得などが学べます。



水上安全法

水の事故から生命を守るための知識と技術が学べます。



幼児安全法

子どもを対象にした事故の予防と手当、心肺蘇生やAEDの使い方などが学べます。



健康生活支援講習

高齢の家族や地域の人々に対する、こころとからだのケアについて学べます。



炊き出し

みなさまからの協力を「生きる食」につなげる！

災害時の食の大切さを伝え、
地域がうまく共助できるように。

炊き出しを、地域から、自分から。

被災者に寄り添う「赤十字炊き出しリーダー」を養成。

地域で炊き出し活動を実施する奉仕団員は、赤十字静岡が行う炊き出しリーダー養成講習会に参加し、炊き出しの技術、実践を学んでいます。

炊き出しの体制を、もっと。

赤十字静岡では、奉仕団が炊き出しに使用する道具として、市町に炊き出し器材の配備を推進中です。配備された市町では、災害時の熱源確保のためにプロパンガス供給業者等との協定を目指すなど、炊き出しができる体制を整えています。



4月から呼び方が変わりました。

「社員」は「協力会員」や「会員」へ。「社費」は「会費」へ。

これまで赤十字の支援者を「社員」とお呼びしていましたが、「協力会員」及び「会員」と改めます。

また、みなさまからの協力資金である「社費」を「会費」と改めます。

なぜ？

社員という名称が、株式会社などの社員や日本赤十字社の職員を連想することがあるので、わかり易くしました。今後も、みなさまにとってわかりやすい、参加しやすい赤十字を目指します。

ご支援者の方々は、赤十字の会員の一人として、これまでどおり、500円以上のご協力により、日本赤十字社の活動へのご支援をお願いします。

その中で、年2,000円以上のご協力をいただける方々は「会員」として登録させていただき、赤十字事業の活動内容をよりご理解いただけるよう、機関紙「赤十字NEWS」などを送付いたします。

災害 救護

みなさまからの協力を「そのとき」につなげる。

災害が起きたとき、
「いのち」を守れるように。

平成28年に起きた特に大きな災害			
4月14日	8月30日	10月21日	12月22日
熊本地震	台風第10号	鳥取県中部地震	新潟県糸魚川市大規模火災

※災害救助法が適用された災害

局地的な大雨や地震など今までに経験したことのない災害が増えています。
だからこそ、赤十字静岡は、災害が発生した時に、直ちに救護活動にあたるよう災害救護体制を整え、るとともに災害救援品の備蓄をし、有事に備えています。



災害救援品の備蓄

災害時に迅速かつ有効な救援対策がとれるよう、災害救援品の備蓄をしています。

- 毛布……………バック加工された毛布
- 緊急セット……………携帯ラジオ、懐中電灯、風呂敷など
- 下着セット(静岡県のみ)……………Tシャツ2枚、下着2枚
- タオルセット(静岡県のみ)……………バスタオル1枚、フェイスタオル・ハンドタオル各2枚



※これらの各災害救援品を県内各地に備蓄しています。平成28年度は緊急セット300個、タオルセット3,000個を新たに備蓄しました。

もし、静岡県で大地震などの大規模災害が起きたら…

日本赤十字社では、グループ力を活かし、全国規模で被災地での救護活動に対応する体制を整えています。
静岡県の救護班が熊本地震災害の被災地へ駆けつけたように、本社及び他県からも救護班が派遣され救護活動にあたります。

災害救護活動をはじめとした様々な活動において、
全国規模の対応ができるのも、静岡県をはじめとした全ての都道府県に赤十字の支部があり、
その活動を支えてくださっているみなさまの温かいご支援のおかげです。

つづける力をください。

すべての赤十字静岡の活動は、
地域のみなさまのために、
いのちを救うときのためにあります。

救護活動

災害時にいち早く救護班などを派遣し、救護活動を実施。そのための救援品備蓄や機材整備、人材育成のための訓練・研修など、常に災害に備えます。



医療事業・ 看護師養成

大切ないのちを救うため、救急医療や地域に根ざした医療を行います。そのために必要な赤十字精神をもつ看護師を養成します。



赤十字講習

身近ないのちを救うための赤十字講習を実施。病気やけがを予防し、一次救命処置をはじめとする知識・技術の普及と啓発を行います。

血液事業

病気やけがの治療などで輸血を必要とする人々を救うため、安全な血液製剤を24時間体制で医療機関へお届けします。



赤十字ボランティア

赤十字静岡の活動はボランティアのみなさんに支えられています。各種奉仕団があり、災害時だけでなく、日常生活においても、特技や技術を活かして活動しています。



国際活動

世界的ネットワークを活かして、紛争や自然災害による被災者への緊急支援、中長期的な復興支援を行うための職員派遣や事業を行います。

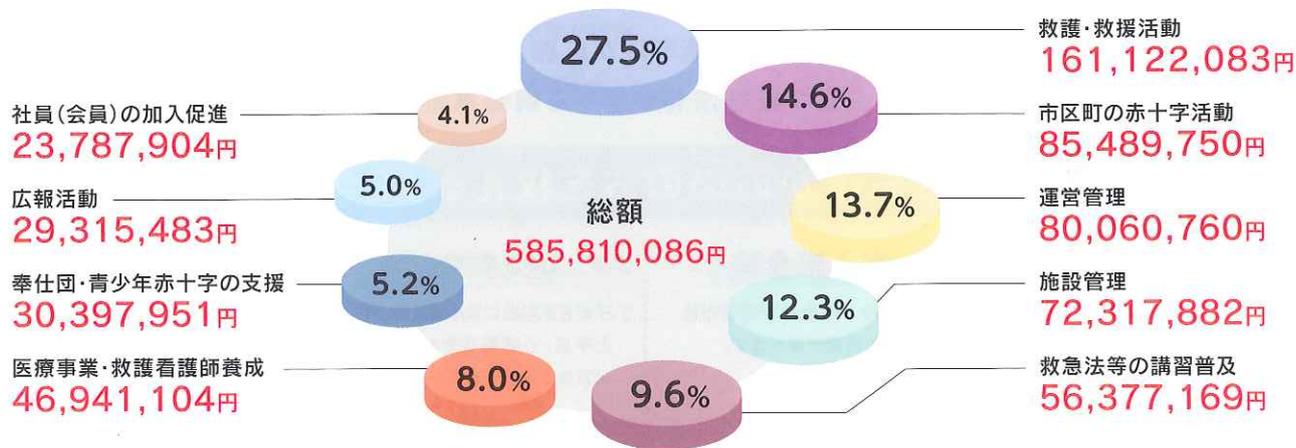


青少年赤十字

幼稚園から高等学校までの教育現場で、青少年が実践活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供します。

活動資金の用途

平成27年度にみなさまからお寄せいただいた活動資金は、下記のとおり活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。



※災害発生時に受け付ける「義援金」は、全額が配分委員会を通じて被災した方に届けられます。